

2017
夏

VOL. 2

JTI Members Magazine

すみつぐ

特集① 巻頭対談「明日の住まいを考える」

上野 千鶴子さん

～変わった!? 日本人の住宅観～

特集② 住みかえファイル - 「マイホーム借上げ制度」利用者様に聞く -
生まれ育った徳島を出て、都会の生活 堪能中!

耳より情報 北九州市

読者アンケートより - 空室時の賃料保証について -
ちょっと気になる住まいとお金のはなし

読者プレゼント

特集 巻頭対談
明日の住まいを考える
02

当機構代表理事の大垣尚司と、特別ゲストをお招きしてのスペシャル対談。今回は、社会学者として常に鋭い切り口で社会問題を世間に問いかける上野千鶴子さんをお迎えし、日本人の住宅観についてお話をいただきました。

変わった!? 日本人の住宅観

「マイホーム借上げ制度」とこれからの住まいのカタチ

社会学者・東京大学名誉教授

上野千鶴子

×

大垣尚司

JTI代表理事・青山学院大学法務研究科教授



家に対する日本人の意識が変わった!!

上野 10年ほど前に大垣さんのアイデア（マイホーム借上げ制度）を伺いました。まだ立ち上げ直後でしたね。上手いところに目をつけたな

と思います。当時、家を担保に年金のようにお金を借りて、死んだら家を処分して返すというリバースモーゲージが注目されていました。日本人は家を所有するっていうことに、アイデンティティを賭けている

だから、家を借り上げるだけで手放さずにすむ「マイホーム借上げ制度」の方が、日本人の意識との親和性が高いだろうと思いました。

大垣 わたしもそう思っていました。

上野 それで、今回事業高のデータをを見せてもらったら、登録者が8000人ぐらい、実際に借り上げている件数は延べで10000件余り。空き家が何百万戸といわれている中、あまりに少ない!

大垣 うーん。まあ、これでも本当になんばつてはいるんですが、そう言われれば少ないですねえ。一番大

きいのは、空き家を抱えながら制度を知らない人がまだまだ多いということかと……。

上野 わたしは、借り手側の意識が変わったんじゃないかと思っているんですが。

大垣 コンシヤスの変化ですか。

上野 そう。J・T・Iがどういう借り手を当初から考えていたかというところと「庭付き一戸建てでのびのびと子どもを育てたい子育て世代」でしたね。

大垣 はい。実際に7〜8割はそういう人たちです。

上野 そういう層が激減しているんじゃないかと思うのね。つまり、郊外庭付き一戸建てでのびのび子育てというライフスタイルは、「専業主婦」とセットになっている。ところが今の若いカップルはダブルインカムでないと生きていけない。だから夫も妻も通勤が可能な圏内に、住まいを持つことが必須になってきていると思う。

大垣 遠いと子どもも預けられないですね。

上野 そう。通勤しやすい場所、夫

婦揃って働きやすい場所なら、緑なんかなくてもいい。どんどん進む都心のマンション開発をみていると、庭付き一戸建ての神話は壊れたんじゃないか。というわけで、そういう家を貸しに出しても借り手がかなくて苦戦されているんじゃないかという仮説を立ててみたのですが。

大垣 なるほど……。確かに、若い子達の実情はおっしゃるとおりですね。ただ、残念ながらそういう現象を肌で感じるほど物件が一回りしているわけじゃないんです。登録者8000人のうち、実際に貸すという決断に至った方々は1000人余り。逆に、東京の郊外でも物件さえ出れば、瞬間蒸発で借り手がついているというのが実際です。そんなわけできっと上野先生がおっしゃっていることは正しいと思うものの、当面の問題は、むしろ空き家の数に比べて貸そうとする人の数が

圧倒的に少ないということみたいな気がします。

上野 なるほど。需要側ではなくて供給側の問題だというわけですね。それじゃ、登録した8000人が1000人に減るといいうところでは何が起きているのかしら?

大垣 まず、半分は情報収集のみ。残りの方も意思決定までに2〜3年かかることが多いです。検討はしたが、一時金があるので売りますという方もいらつしやいます。そういう方のために、一時金を借りてJ・T・Iの家賃だけで返済できるローンも用意しているのですが……。

上野 そもそも、持ち家がアイデンティティである人たちというのは、農家の次、三男坊で、屋敷田畑を継げない立場で東京に出てきた人たちですよ。

大垣 はい。

上野 向都離村で、都会に出て来た

制度の利用者が増えないのは、借り手側の意識が変わったんじゃないかと。(上野)

人たちが、首都圏近郊の千葉、茨城、埼玉に持ち家を構える。そこには、自分が創設分家の一代目だという意識が強烈にあったんだと思う。人生双六の上がりを持ち家だったわけ。

大垣 なるほど。だから、売る貸すどっちにしても、本当に必要に迫られないとやらないということになる。

もはや、日本人の住宅観は変わらざるを得ない

大垣 でも、日本人の住宅観は、もはや変わらざるを得ないと思います。日本の住宅を巡る環境は、100パーセント変わっています。

上野 そう。91年、92年に土地神話が完全にバブルとともに崩壊しました。土地の値段は上がり続けるものだという戦後長きに渡って続いた神話が完全に崩壊して、取得価格よりも安くしか売れないことが普通にある時代が始まった。

大垣 しかし、地価は上がるという、団塊より上の世代の人たちの刷り込みはなかなか根強いですよ。

上野 その刷り込みは消えていない？

大垣 どこかに強く残っているようにみえます。だから、住まなくなってももったいないから放置する。ただ、家と違って土地自体は経年劣化のない稀な資産です。将来絶対値上がりしないとは言いい切れぬ。だから、売らずにすむなら売らないでいいわけです。

問題は、空き家で放置することです。JTIに貸せば最低5万円ぐらいの手取り家賃はもらえることが多いです。今、銀行の預金利子で月5万円をもらおうと思ったら、100億円近く預けないといけない。JTIの借上げは、すごく効率のよい資産活用なんです。すでに制度を利用されている先見の明のある人達を除いて、まだまだ豊かだからなのかなと思ったりしています。

上野 豊かかっていうけど本当かしら。人生100年時代と言われるようになった今、退職後も30年以上生きる可能性がある。でも、みんな、もともと人生は短い前提で資産形成をしてきているわけで、実際には、老後計画が全く立たなくなっている人は多いんじゃないでしょうか。

いでしょか。

大垣 いや、もう、その通りなんです。だから、「家は売らずにお金にかえましようね」と言い続けているわけですが……。

上野 なのに、数字が伸びないんですね(笑)。

今やサバイバル—— 自衛の時代

上野 もともと日本人は、アメリカ人みたいに家に対する愛着を持たずに頻繁に住みかえるなんてことはやらないだろうと思われていたわけだけど、そろそろ、そろそろでもなくなってきたって感じがしません？

大垣 そうです。合理的に考えたら、もうそうならないと日本人はすごく不幸になるように思うんですけど、気軽に動くという文化はまだ作れてないと思いますね。

あと、アメリカですと、50州中18州は州の相続税がありません。そういう州の一つで気候が温暖なフロリダに行って死ぬということは、財産的にも

合理性があるんです。日本の場合はどこに住もうが相続税は一緒だし、地方のほうも、老人には来いとも言ってくれない。

上野 超高齢化で自分の老後がいつ終わるか、見通しが立たなくなりました。このまま自衛しないと、ストックを子どもに継承するという余裕はだんだん失われてきて、自分で使いつぶして、気がついたら子どもに遺すものは何も無い、という状況にならざるを得ない。


そうになると、その人たちの子どもにあたる、団塊ジュニアより下の世代は、親から家を継承するつもりでいたのが、それも難しくなってきました。だからといって、自分の一生を抵当に入れなると家は買えない。ところが、自分の一生を抵当に入れようと思ったら、雇用保障のある正規職についていないといけない。さらに給料は減っているから、ダブルインカムでないといけない。つまり正規職同士で婚姻をしていて、その婚姻が安定していること、これが持ち家取得の必須の条件になる。ところが一方で、非婚率が高まり、離婚率が高まって、婚姻の安定性は事実上、損なわれています。そういう人たちは、

JTIの借上げは、すごく効率のよい資産活用なんです。(大垣)



上野 千鶴子 (うえの・ちづこ)

社会学者・東京大学名誉教授 / 1948年富山県生まれ。京都精華大学人文学部教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授を歴任。専門は女性学、ジェンダー研究。著書に『近代家族の成立と終焉』(岩波書店)、『おひとりさまの老後』(文春文庫)など多数。

 women's action network 女性と女性の活動をつなぐポータルサイト

WAN (Women's Action Network)

上野さんが理事長を務める認定NPO法人。女性のための情報を提供し、世代や地域、分野、国籍を超えて女性の活動をつなぎます。
<https://wan.or.jp>

 プレゼントのお知らせ

同封の「読者アンケート」をご返送いただいた方、また、お便りを下さった方の中から抽選で3名様に、上野さん直筆サイン入り著書をプレゼントいたします。詳しくはp11「編集部より」をご覧ください。

賃貸に暮らし続けるしかない住宅弱者になっていきます。

大垣 そうですね。実はもうひとつ、わたしが2025年問題と呼んでいる問題があります。住宅ローンの期間が25年から35年になったのはそれほど昔の話ではなく、小泉政権時代の2000年以降なんです。そこから2006年頃までに借りた人が1千万人ぐらいいます。彼らは今のところ50歳代の前半ですが、これがもう少しすると一斉に退職期を迎える。ところが、ローンはまだ10年近く、

残高でいうと2500万円ぐらい借りた方だと900万円程度残っています。日本人の平均退職金は1500万円くらいですので、退職金で「スッキリ」しようとする、

老後の備えがますます減る。

上野 あら、まあ。それは深刻ですね。どうなるのかしら。

大垣 杞憂だとよいのですが、このままだと、現役時代に必死でローンを返してきたつもりなのに、退職したら返せなくなって結局家を無くすということになりかねません。一方、

そうだったら、安く暮らせる場所に移住して、住宅はJ-TOIに預けて家賃で返すという選択肢に現実性が出てくるかもしれませんので、リバースモーゲージとマイホーム借上げ制度をうまく組み合わせる後に住宅ローンの負担から解放される仕組みの検討を住宅金融支援機構と始めたところです。

上野 わたしは最近、「サステイナブル」という言葉を使わず、「サブイタル」って言っています。もはや、この世の中で安心して暮らすには、

自分で自分の身を守る自衛が必要。そのための制度のはずのマイホーム借上げ制度の利用がもっとも増えるといいですね。

大垣 上野先生のご著書など拝見していて、日本人の老後について本当に慧眼をお持ちなので今日の対談を本当に楽しみにしていました。予想どおりの確で大変考えさせられるご指摘ばかりでした。上野先生、本日はどうもありがとうございました。

生まれ育った徳島を出て 都会の生活 堪能中

今回インタビューにご登場いただくのは、約300の研究機関が集まる最先端研究都市、茨城県つくば市に住むKさんご夫妻。九州出身のご主人と、ご主人の転勤でつくば市に来るまで一度も四国を出て暮らしたことがなかった奥さま。

生まれ育った場所を離れることに不安はなかったのか。移り住んでからの都会の生活は？ ご夫妻が制度を利用するに至った経緯、そして現在の生活について、奥さまが語ってくださいました。

肌に合っていた アーバンライフ

4年前に徳島からつくばへご主人の転勤が決まったとのことですが、徳島から出て新しい土地で暮らすことに不安はありませんでしたか。

学生のころから徳島を出たいと思っていたので、あっさり受け入れられました。地元の友人は「お友達もいないところに行くと大丈夫？ 鬱になったりしない？」なんて心配してくれましたが、私はずっと出たかったので、移り住んでみて、やっぱり平気でした。

ご主人はお仕事が非常にお忙しそうですが、奥様もお仕事に興味にかなり充実した毎日を送っていらっしゃる様子ですね。

2年前から週に2日、幼稚園と小学校の子供たちが通う学習塾でアシスタント講師をしています。子供たちが相手なのですが本当に可愛くて。クラシックバレエは、徳島に住んでいたころ娘が通っていて、その時の先生が大人クラスもスタートするからお母さんたちもどうですか？というところで、娘が高校生の時に同じ教室で始めました。つくばに来てからも近場で先生を探して、もう10年以上続けています。





奥さまのバレエシューズ。「娘が習っているのをきっかけに始めたんです」とのこと。舞台上で母娘共演したことも!

絵を見るのも好きなので、展覧会もよく出かけますね。上野や六本木の美術館は、電車で1時間ほどで行けますし。こちらに来る前は「東京は刺激があつて楽しそうだなあ」と思っていたんですが、やっぱり楽しい。肌に合っていたのでしょうか、もう楽しくて。

現在お住まいの賃貸マンションは、どうやって探されたのですか。

土地勘もなかったのですが、ネットで一生懸命探しました。下見に来たときはまだ工事中で部屋の中は見られませんでした。新築だったことと私が運転をしないので駅から近かったことからここに決めました。買い物も近くに大型ショッピングセンターが

あつて、何でもそろうので便利ですよ。

急な転勤。その時 マイホームは?

転勤が決まった時、マイホームはどうされるか考えましたか。

転勤となったからには徳島にすぐ戻るといふことはないと思つたので、家はどうしようかって考えたんですね。でも、転勤が決まってから引越しまで全然時間がなかつたので、家をどうするか家族で話し合うどころか、家具や電化製品もほとんど置いたままこちらに来てしまつたんです。結局空き家状態となつてしまいましたが、幸い姉が近くに住んでいたの、時々窓を開けて空気の入れ替えを頼んでいました。

J-Teeの制度のことはどこかでお聞きになつたのですか。

空き家のままでは家も痛むし、姉にも手間をかけているし、何とかしなければとは思っていたんです。でも誰かに貸すにしても経験がないので手続きもよくわからないし相場もわからない、どこに頼めばいいかもわ

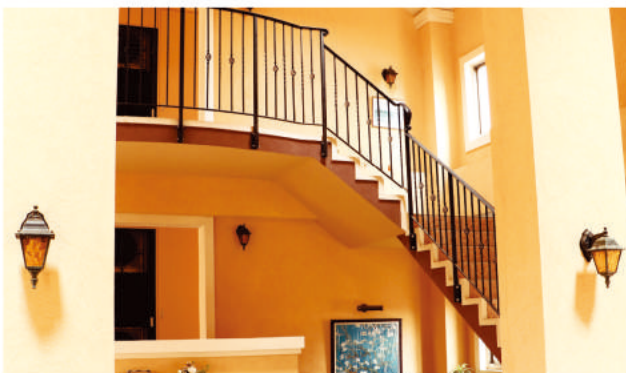
からない、という状態でした。その頃、今から2年ほど前に、NHKのEテレで『団塊スタイル』という番組をやつていて(2012年4月、2017年3月放送)、たまたま制度のことが紹介されていたんです。これはちょうどいい制度かもしれないと思つて、早速ネットで調べて資料を送ってもらい、すぐに担当の方に来ていただいて相談しました。

貸し出すとき、かなり修繕や手直しはされたのでしょうか。

いいえ、築15年くらい経っていたんですが、クリーニングと細かい手直しをしただけで壁紙の張り替えをする必要もなく、ほぼ住んでいた時そのままの状態で借上げてもらいました。

制度を利用することについてご家族の反応はどうでしたか。

家に愛着もありましたし、賃貸に出さなくても姉に時々空気の入れ替えをお願いすればいいかな、と思つたりもしました。子供たちも最初は「自分たちの住んだ家に他人が入るの?」と乗り気ではなかつたようです。



現在お住まいのマンションのエントランス。こだわりを感じる装飾が随所に。

「ご家族の反応も様々だったようですが、制度を利用する決め手は何だったのですか。」

空き家のままにしておいても家は傷みますしね。説明を受けて制度自体、安心できるものだと思いますし、信頼できるものだと思います。それと終身で借りてもらえる、入居者の方とは3年ごとの契約更新なので帰りたいければ帰れる、というのが決め手でした。

入居者はすぐ決まりましたか。

タイミングも良かったのか、3月に募集を始めて、その月の内に決まりました。

置いたままだった家具などはどうされたんですか。

入居者を募集する一か月前に徳島に帰って、一人で片づけ作業をしました。買い取ってもらえそうなものは業者さんに査定をお願いして買い取ってもらって、子供の思い出の品などは、子供に聞きながら処分したり新居に持ってきたり。子供に「残しておいてほしかったのはこっちじゃない」なんて言われながらほとんど一人で片づけました。結構大変でしたね。すでに亡くなっていた両親が持たせ

てくれたお嫁入りの道具や、子供たちが弾いていたピアノが次々と運び出されていくのを見ているのは、やはりもの悲しいものでした。

家の中を整理され、入居者もすぐに決まり、いよいよ制度利用がスタート。その後、制度を利用するうえで困っていることはありますか。

契約時には浄化槽の点検や清掃はどうするか、庭木の剪定はどうするか、ウッドデッキがあるんですが、塗装が剥げてくるかどうかどうするかなど、色々決めなければいけない細かいことがたくさんありました。この前も給湯器が壊れてお湯が出なくなってしまうと連絡があり、交換したばかりですが、オーナーとしてやるべきことはありますが、制度を利用していること自体には、今のところ特に不満はないですね。

セカンドライフは二地域居住？

今はお仕事が忙しいご主人ですが、定年後の過ごし方についてご夫婦でお話しはされるのでしょうか？



ご主人と海外旅行をした時のスナップ。「旅行に行くのも好きで、出不精の夫を私が連れ出すんです」と奥さま。

主人は退職したら「まずは家でゴロゴロしたい」と言っています。人ごみあまり好きじゃないみたいで、徳島に帰りたいとも思っているようです。海とか広い川とか、そんなゆったりした自然のある景色が好きなんですよね。私はやっぱり刺激のあるこちらに住み続けたいです。退職後どこに住むかについては、今は意見が分かれています。

続けられそうですし、夫が退職しても私の方は特に大きな変化はないと思うんですけど、習い事をもう一つぐらい増やそうかな。寡黙でまさに「研究者タイプ」だというご主人と、明るくフットワークの軽い奥さま。セカンドライフについては、今はご夫婦それぞれが思い描くスタイルをお持ちなのですが、休日になると「旅行が大好き」な奥さまがご主人を誘って海外旅行にも出かけられるそうです。



50歳から住みたい！ 充実のいきがい支援 きっと見つかる 北九州市

今回ご紹介するのは福岡県・北九州市。八幡製鐵所、門司港レトロ、小倉祇園太鼓…。古くから「九州の玄関口」として本州と交易し、また諸外国との交流も盛んに行ってきた歴史ある街として知られる北九州市。実は「生涯活躍のまち」として国からの認定を受けているほか、雑誌「田舎暮らしの本」では2016年度の「50歳から住みたい地方ランキング」で1位に選ばれているんです。「生涯いきがいをもち、健康でアクティブな生活ができる街に」という考えのもと実際に行われている活動をご紹介します。

【いきがい探し】やりたいことに出会える街

シニア層のいきがいをを見つけるサポートのため、北九州市は様々な独自の取り組みを行っています。

いきがい活動ステーション

シニアのいきがい探しをきめ細やかにフォロー。「何かやってみよう」という気持ちをカタチにする場です。「そうは言っても、何をしたいかわからない」という方には専任のコンシェルジュがサポート。交流サロンや読書会、脳トレや体操などのイベント開催のほか、ボランティアや展覧会などのイベント情報の提供、ショップやグループ、セミナーの立ち上げ援助などなど。移住後、やりたいことが思い浮かばない！という方も、ここに行けば何かに出会えそうです。

年長者研修大学校（周望学舎・穴生学舎）

シニアのための1年限定の学び舎。国内外の歴史や経済など

の座学、ストレッチや口腔ケア、園芸、陶芸、書道、写真、語学、ボランティアを通じた地域活動など、身近でかつジャンルにとらわれない様々なカリキュラムを用意。卒業後も継続して地域と関わるきっかけになっています。



生涯現役夢追塾

「北九州市をもっとよくしたい！」と考える50歳以上の方々に、地域の新しい担い手となってもらうための教育プログラム。所定の講義を受講し、プロジェクトワークを経験した卒業生は現在、「空き家対策」「休耕地を活用した年長者の働く場所づくり」「視覚障害者向けスマホ用アプリの開発」「北九州市のPR」など、様々な分野で活動をしています。

【住まい】定年後の住まい探しも安心

「入居希望者が高齢者・障害者世帯であるという理由では入居を拒まない」という趣旨に賛同した不動産事業者を「高齢者・障害者住まい探しの協力店」として登録（2017年4月時点で73店舗が加入）

【医療】病院や介護施設も充実

都市の規模や面積がコンパクトなので、医療施設へのアクセスもバッチリ。市内5カ所には在宅医療・介護連携支援センターがあり、在宅医療支援も充実。

【仕事】全国初「シニア・ハローワーク」の設置

平成28年8月に開設した「シニア・ハローワーク戸畑」では、50歳以上の採用に積極的な企業の情報提供はもちろん、履歴書の書き方や面接の受け方まで、丁寧なフォローを実施。

【移住者の声】

2016年に、70代で横浜市から移住された佐藤さんご夫婦。市の提供する「お試し居住」を一か月体験し、移住を決めました。当初移住に積極的だったのは奥様でしたが、ご主人もお試し居住によってどんどん乗り気に。介護の質の高さ、街の過ごしやすさなどを見て、「素晴らしい街」と移住を決断されました。



相談窓口

- 北九州市 東京事務所
☎ 03-6213-0093 営業時間 9:00～17:45 休業日 日/祝日/年末年始
 - 企画調整局地方創生推進室
☎ 093-582-2174 営業時間 8:30～17:15 休業日 土/日/祝日/年末年始
- ✉ kikaku-chihouseisei@city.kitakyushu.lg.jp

北九州ライフ 検索



前号 (vol.01 創刊号) で実施した読者アンケートでは、『制度を利用して気になっていること』についてお聞きしました。皆様からは「今借りてもらっている家を、この先何年貸せるだろうか」「どんな入居者が使ってくれているのか」など日頃気になっていること

から、「制度利用中に勘違いしやすい点を教えて欲しい」「入居者募集状況の報告をもらえると安心」といったご要望、「長年同じ方に住み続けていただいて、制度に満足」といったご感想まで、たくさんのご回答を頂きました。

今回は頂いたご回答の中から 空室時の賃料保証 についての疑問にお答えします。

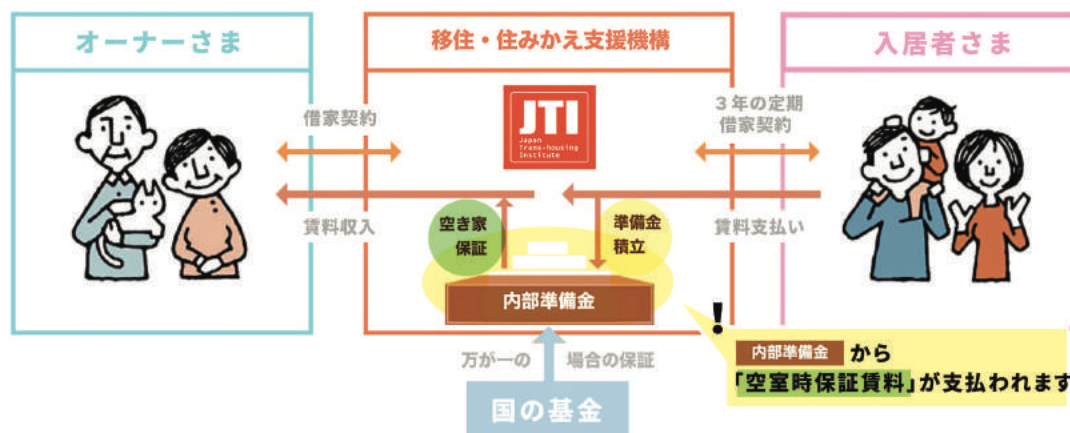


オーナーさま

マイホーム借上げ制度では、入居者が退出して空室になってしまっても賃料が支払われるということですが、家賃収入もないのに、どこからどうやって支払われるのですか？



入居者が出てしまっても空室となった場合でも支払われる賃料を「空室時保証賃料」といいます。JTI では入居者から支払われた賃料の一部を、空室時の賃料支払い用に「内部準備金」として積み立てており、空室期間中はその積立金の中から「空室時保証賃料」として支払われます。また、積立金が万一資金不足になってしまった場合も、国の基金が準備されているので安心です。



JTI では、今後も皆様からのご質問をお待ちしております。次回は「確定申告が大丈夫か不安」というご意見にお答えする予定です。

おたより紹介

読者のみなさまからお便りをいただきました。一部をご紹介します。

制度利用から10年目に突入

制度利用をスタートして10年になります。売却していたら手元にも残っていなかったと思うと、制度利用できたことに感謝しております。リフォームする時はまとまったお金が必要ですが家の価値も上がるのでよかったと思っています。(千葉県Nさん)

JTI 設立の過程を理解できてよかった

「すみつぐ」(創刊号) に書かれていることは参考になりました。対談コーナーを読んで、制度を利用している者としてJTIの設立の過程を理解できたのが良かったです。今後もこのような記事を期待しています。(愛媛県Yさん)

資産形成から資産活用へ

人はいつまでも現役で働けるわけではありません。年を取ってから安心して暮らせるように現役の間にお金を貯めたりお金になる資産を購入しておくことを**資産形成 (asset accumulation)** といいます。実は、金融機関はこれまで**資産形成**の領域にばかり力を入れてきました。人生がそんなに長くなかった時代は、資産が残ることのほうが多く、むしろ、相続対策に焦点があつていたので。しかし、引退してからも30年前後の「第二の人生」がある時代になると、形成した資産を「死ぬ前に足りなくならないようにどうやって賢く使い切るか」が重要かつ難度の高い問題になります。米国ではこの問題に**資産活用 (asset decumulation)** という造語を当て、さまざまな分野で商品やサービスの開発が競われるようになってきているのですが、残念ながらわが国の金融機関の取り組みは大きく遅れています。また、お金で備えればそれでよいというわけではなく、金融資産以外の財産を有効活用したり、果ては、医療や介護にお金がかからないよう健康を維持することまで含めて、幅広く柔軟な発想が必要になります。

そんな中で、庶民にとって大変な思いでローンを返さなかったマイホームや親から相続した家を有効活用することは、最も効率的な**decumulation**の方法の一つということができます。マイホーム借上げ制度を利用してあるみなさんは、世界でも最先端の資産活用実践者だといってもよいでしょう。

編集部より

『すみつぐ』編集部では、制度利用者様からのおたよりをお待ちしております。住みかえや住まいに関する疑問、これから制度を利用される方へのアドバイス、日々つれづれ思うことなどをお聞かせください。誌面へのご意見・ご感想もお待ちしております。

例えばこんな疑問や体験

▷「住まい」についてこんなことが知りたい (リフォームや耐震補強についてなど) ▷「住みかえ」についてこんな情報が欲しい (各自治体の移住情報、気になっている地域など) ▷住みかえレポート (住みかえて良かったこと、苦労したこと、びっくりしたことなど) ▷JTJへのご質問、ご要望。▷『すみつぐ』各コーナーについてのご意見、ご感想。

読者プレゼント

同封の読者アンケートにお答えいただいた方、または編集部あてにご投稿をいただいた方の中から抽選で3名様に、巻頭対談にご登場くださった上野千鶴子さんの新著『時局発言！ 読書の現場から』(WAVE出版)を直筆サイン入りでプレゼント！



『時局発言！』上野千鶴子さん直筆サイン入り著書

ご応募・おたよりお待ちしております！

3名様

宛先はこちら

必要事項 (①~③) をご記入の上ハガキ、FAX、メールのいずれかにて下記宛先までお送りください。

①郵便番号、ご住所 ②お名前 ③今号へのご意見・ご感想など

宛先 : 102-0093 東京都千代田区平河町 1-7-20- 5F
JTJ「すみつぐ」編集部

FAX : 03-5211-3207 (※ FAX 番号)

E-mail : sumitugu@jt-i.jp

【応募締切日】2017年8月31日 JTJ着

※当選発表は商品の発送をもって替えさせていただきます。商品のお届けは日本国内、契約者ご本人様の弊機構へご登録いただいているご住所に限らせていただきます。

すみづく 第2号

発行日：2017年8月1日(季刊)

発行：一般社団法人移住・住みかえ支援機構（JTI）



〒102-0083 東京都千代田区平河町1-7-20 平河町辻田ビル5F



関東圏にてラジオ番組 配信中！

『大垣尚司・残間里江子の大人ファンクラブ』

毎週日曜日 文化放送 午前9：30～9：55

JTI 代表理事の大垣尚司と、団塊世代プロデューサー残間里江子さんで送る大人のための番組です。楽しく充実したセカンドライフを送るために、住まいやお金の話題を中心に幅広いジャンルのトークで盛り上がります！

radiko.jp (ラジコ) にて最新放送分が聴けます。*【放送エリア】東京都・神奈川・埼玉・栃木・茨城・群馬